

令和元年6月13日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17283

研究課題名（和文）中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの国際的評価に関する研究

研究課題名（英文）A Research about the Evaluation of Japanese Nursing Service on China's Nursing Market

研究代表者

郭芳（GUO, FANG）

同志社大学・社会学部・助教

研究者番号：70755389

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、まず、中国における福祉の市場化の展開と特徴を検討し、現段階の中国の福祉市場は自由市場に近いという結果を出した。このような環境は日本介護事業者の中国進出を促進するだろうと予想される。次に、日本式介護の現地化プロセスに焦点をあて、事例調査を通して「日本式介護の特性」について明らかにした。日本介護事業者は自立支援の介護理念を、中国での事業展開においては維持しようとしている。しかし、異なる介護観をもつ中国では、自立支援は中国人職員と高齢者に理解されていない。日本式介護の中国における適応可能性を考える際、何をもちてその質が高いと言えるか、その効果の実証を明らかにすることは今後の課題になる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急速な高齢化に直面する中国では、公的サービスだけで賄えない部分での市場サービスの有効的な利用を考える価値がある。本研究の学術的独自性は、介護サービスという社会保障政策の範疇ととらえられがちな領域について、中国という特殊な環境で、市場サービスの可能性を認めているところである。

その結果として、中国の高齢介護問題の解決に貢献ができると共に、日本の介護事業者の国際事業化推進に対して情報提供ができる。

研究成果の概要（英文）： This study first examined the development and characteristics of the marketization of welfare in China, and the result was that the Chinese welfare market at this stage was close to a free market. It is expected that Japanese carers will advance into China. Next, we focused on the localization process of Japanese-style care, and clarified "the characteristics of Japanese-style nursing care" through case studies. Japanese carers are trying to maintain an independence-supporting care philosophy for business development in China. However, independence-supporting care is not understood by Chinese staff and the elderly in China. When considering the adaptability of Japanese-style nursing care in China, it will be an issue for the future to clarify the demonstration of its effect as to what its quality is high.

研究分野：高齢者福祉

キーワード：日本式介護 中国進出 現地化 介護サービス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中国は2000年に高齢化社会となり、以降高齢者向けの福祉政策が拡大され、福祉の市場化・産業化という発展目標に関連する一連の政策が発表された。このような政策方針に基づき、国内民間資本や外国民間資本によるシルバー産業への参入が急増した。日本の介護事業者も中国の介護市場を狙って「日本式介護」を進出させた。みずほ情報総研(2017)によると、現在、中国に進出した日本の介護事業者は39社存在する。提供しているサービスとしては、介護サービス、コンサルティング、人材育成、福祉用具・機器などである。ここ数年、日本の介護事業者はアジアへの事業進出を活発化させている。しかし、中国においては、進出している事業者は多くの課題に直面している。例えば、現地でのビジネスパートナー探しの困難さ、規制のあるなかでの現地の行政サイドとのネットワーク不足、介護保険制度の存在しない中国で事業採算性を確保するためのノウハウの乏しさ、また、家族以外から介護サービスを受けるとしたことへの理解に乏しい現状のもとで文化や生活習慣の異なる国に日本式介護の「優位性」を伝えることの困難さ、さらに事業資金や海外経験のある人材が十分でないなどが挙げられる。

文化や生活習慣の異なる国に日本式介護の「優位性」を伝えることの困難さという課題について、この点は日本の介護事業者の工夫により改善できる課題であり、また、日本式介護の中国における展開可能性に直接かかわると考えられる。「日本式介護の優位性を伝えることの困難さ」というのは、日本式介護の意義や価値の共有が困難であること、また日本式介護の質はどこがよいのか具体的な内容について日本の事業者も説明できず、中国の高齢者も理解できていないということである。その結果、進出事業者は利用者獲得に苦慮している。このように、日本の介護事業者は日本式介護の技術を利用して中国で介護事業を展開しようと考えたものの、中国現地にある既存の類似サービスとの差別化が課題となっている。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえて、日本式介護の差別化のための研究をすすめていく必要がある。日本式介護の差別化をするためには、まず日本式介護の特徴をまとめ、次いで、中国現地の類似サービスと比較する必要がある。

本研究では、日本式介護は進出する中国の社会福祉の環境はどのようなものかを明確にするとともに、日本式介護サービスそのものに重点を置き、事例調査を通して、日本式介護の現地化プロセスの実態を明らかにすることを目的とする。具体的には、現在展開している中国の福祉の市場化について、その現状と特徴を明らかにする。また、中国の介護市場に進出した介護事業の現地化プロセスにおける問題および事業者による工夫を明確にし、日本式介護の特徴をまとめていく。つまり、日本の介護事業者は日本式介護の展開においてどの部分を中国に合わせ、どの部分を維持して中国に浸透したかを明確にすることを通じて、「日本式介護」というものを探索していく。

3. 研究の方法

研究の方法は、「日本式介護の進出環境」について、主に文献調査を用いる。「日本式介護サービスの特性」について、事例調査を用いるが、具体的に、介護事業者へのフィールドワークを通して日本式介護施設の基本状況やサービスのプログラム、介護マニュアルなどの資料収集をする上、介護事業者の現場責任者を対象として、半構造化インタビュー調査を行う。

日本における介護サービス固有の特徴をみる際、どのような面から測定するかについて、「有料老人ホームサービス第三者評価プログラム」(Ver6.4)と一般社団法人広島県シルバーサービス振興会の福祉サービス第三者評価(サービス編)に基づき検討した。プログラムのなか、評価スケールに経営関連のもの(事業主体の経営姿勢、ホームの運営方針)を除き、サービス関連のもの(建物・設備、生活サービス、食事サービス、ケアマネジメント、ケアサービス)を参考として、日本における介護サービスの特徴をみる際重要と考えられる項目を、【建物設計】【設備環境】【サービスの内容】【ケアに対する考え方】【認知症ケア】【職員の姿勢】の6つの項目を採用した。

4. 研究成果

(1) 日本式介護の進出環境

中国では、高齢化と家族機能の弱体化が進展し、1980年代から以降、サービス利用に伴う費用徴収が拡大し、高齢者ケアの市場が存在するようになった。その後、福祉の「社会化」が推進され、ケアの供給主体は多元化した。家族が担えない部分は主に市場が補完するようになり、中国のケア供給は基本的な方向性として「家族から市場へ」展開してきた。また、民間事業者は高齢者ケア供給者に占める割合が高いことから、「民営化」を通して市場化が進んできたことがわかった。同時に、供給者間では利用者を獲得するため、「競争」が生じている。

利用者の選択と供給者間の競争の発生に伴い、中国のケア供給は市場化へ踏み込み、福祉の「市場化」は形成されつつある。また、急速な高齢化により、中国では準市場の形成なしに、福祉市場が拡大している。そして、中国の福祉市場は、市場の構成要素である選択、価格、競争を全て備えていると同時に、行政からの規制・指導監督が弱いため、現段階では自由市場に近いと考えられる。しかし、自由市場に近い状態にある中国の福祉の市場化は、事業者間(公民間)の不平等な競争関係、費用の全額負担によるサービス利用の格差などの問題をもたらす

ている。これらの問題への対応および介護サービスの質の確保のため、福祉行政の最終責任及びその行政責任を監査するシステムの構築は、残された大きな課題である。

(2) 中国に進出した「日本式介護」

「日本式介護」の用語説明

「日本式介護」という用語は、日本の介護サービスが日本から海外に進出し、進出国の諸環境・制度、文化・習慣に影響を受け、現地化して形成した新たなサービスであると定義される。日本における介護サービスの提供主体は介護ニーズの多様化や介護保険制度の実施により多元化しており、大きく分けると、社会福祉法人等の非営利法人と営利法人があるが、現時点で中国に進出した日本式介護は営利法人による介護サービスであるため、本研究で用いる「日本式介護」は企業である日本の介護事業者が中国において展開している介護サービスのことを指すものとする。中国進出した日本式介護が中国の諸環境・制度、文化・習慣に影響を受けることを、本研究では、日本式介護の中国における位置づけとして捉える。

「日本式介護」サービスの特性

事例分析を通して、日本式介護の「現地化プロセスにおける変化」および「変化に対する事業者の工夫」について3つの事業者はそれぞれの状況は異なるが、共通しているところも多い。

ハード面である【建物の設計】と【環境設備】について、既存の建物の改造が多いため、変えられないところがある。また、現地の法律や消防基準、現地パートナーの意見もあるため、「できればこう(日本的)したいが、あまりこだわらない」というのは事業者の声であった。ただし、衛生面で考えると、「日本的なきれいの概念」をOJTあるいは日々のチェックを通して中国人介護職員に伝達していくことが望ましい。

【サービスの内容】に大きな変化はないものの、文化的・習慣的の違いによる変化として下記のものあげられる。・昼寝の習慣がある。この習慣に合わせるために、横になれるようなソファを設置する事業者がある一方、昼寝が長くなると、夜間に起きてしまう可能性があることと心配している事業者もある。・風呂の習慣がない。中国人高齢者の習慣に合わせて無理に日本の風呂習慣をつけさせるのではなく、シャワーが使えるように部屋に設置してある。・相部屋のほうが望ましい。理由としては話し相手がいることと倒れた際に一人ぼっちであることへの心配があるからである。・家族の訪問が多い。親孝行の概念がまだ強い中国では、親への精神的扶養として毎日施設を訪れる家族もいる。家族の訪問が多いと、施設への要求も多くなっている。これは日本の事業者が中国に進出する際に理解する必要がある一つの文化である。

【ケアに対する考え方】という項目は、日本の介護事業者が大切にしており、中国に一番浸透させたい部分であり、同時に一番苦労している部分でもある。日本における介護は、寝たきりにしないための「自立支援」、身体拘束がない等の「尊厳を守るケア」、相手のパーソナリティをみて考える「エビデンス支援」などの特徴がある。このような目に見えないものの、相手本位のサービスを提供することは3つの事業者が展開したい日本式介護の重要な部分になっている。例えば、日本の介護では、なるべく健康で動ける状態を維持しようとする「自立支援」という考えが前提にある。このため、食事やトイレを含め、高齢者が自分でできれば、身体機能維持のために、なるべく自分でやってもらうという考えが根底にある(ダイヤモンド・オンライン編集部 2017)。中国では「高齢者に辛い思いをさせたくない」という考えが根強く(森 2017: 67)「自立支援」という概念が十分に浸透していない可能性がある。このような認識のズレがあるため、家族の訪問が多い中国でのサービス提供において、実施している予防支援や自立支援を繰り返し家族に説明し続けている。

【認知症ケア】について、現在の中国では、認知症の人を受け入れる介護施設はあまりなく、ほとんどの人は家あるいは精神病院で介護を受けている。日本のように、認知症高齢者が自宅や介護施設で介護を受けながらも、普段通りの生活を送るというのは、考えられないことである。社会の認知症に対する認識がまだ低いため、介護職員は認知症ケアのノウハウをもっていないのが現状である。調査した2カ所の施設は日本で提供している認知症ケアと同じようにケアを実施している。今後、中国における認知症高齢者の増加により認知症対策の課題が出てくることが予想される。そのため、認知症ケアは日本式介護の強みになることが考えられる。

2カ所の施設では、指導者として日本人職員を派遣しているが、現場の職員はほとんど現地採用の中国人である。ケアに対する考え方の項目で説明したように、介護事業者は浸透させたい日本の介護の部分があり、そしてこれらのサービスは中国人介護職員を通して提供していくことになっている。そのため、日本の介護の理念やケアに対する考え方を中国人職員に伝えないとならない。しかし、日本と同じように、中国でも介護業界は、若い人に人気がなく、人手不足が深刻であるため、職員を選択する余裕があまりなく、採用している職員は50代の農村出身女性労働者が多い。また、介護職は職としての社会的地位が中国ではまだ確立されていないため、被雇用者である介護職員は「お金のために」働く、管理者の顔色を見ながら仕事を行うという現実があり、介護の理念や思いなどは二の次になってしまっている状態である。現在、目の前の仕事を熟せるためには、「育成」よりは日々「チェック」をしている状態になっている。さらに、日本の介護現場ではチームワークを強調されるが、中国人職員は利用者の情報共有やチームで働くことは非常に苦手であることがと調査からわかった。中国において日本の介護サービスを展開する際、サービスが適切に提供されるかどうかについては介護職員に関わっていると断言しても過言ではない。中国人介護職員の雇用に対する価値観や介護に対する認識は日本

人と異なるため、介護職員の育成は日本の介護事業者を悩ませている大きな課題である。

日本における介護サービスの特徴をみる際重要と考えられる6つの項目は中国の介護市場において、【建物の設計】【環境設備】と【サービスの内容】については、日本的なものを導入しようとするところがあるものの、中国に合わせている部分になっている。【ケアに対する考え方】と【認知症ケア】は日本の強みであり、日本特有なものとしてそのまま維持したい部分である。しかし、【職員の姿勢】が整えられていないため、維持したい日本の強みはなかなか浸透させられず、事業者を悩ませている課題である。日本式介護の「優位性」を伝えていくためには、サービスの質というソフト面での差別化は重要であり、そこで肝心の職員育成が問われてくる。今後、日本で展開している介護に特化した教育訓練プログラムの活用が期待される。

<引用文献>

みずほ情報総研株式会社、介護サービス等の国際展開に関する調査研究事業、平成28年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業報告書、2017
森詩織、日本式介護を中国でも、ジェットロセンサー、67(800)、2017
ダイヤモンド・オンライン編集部、中国で日本の介護会社が苦戦、『日式』の強みを生かせない理由、2017

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

郭芳、中国における民間福祉サービスの展開、総合社会福祉研究所、福祉のひろば、査読なし、228号、2019、24-27。

郭芳、中国の介護サービス供給と介護保険制度の行方、国際経済労働研究所、『Int'l ecowk 国際経済労働研究』、査読なし、1085号、2018、17-24。

郭芳、中国における福祉の「市場化」の展開と特徴に関する考察、社会政策学会誌、社会政策、査読あり、10巻2号、2018、105-116。

郭芳、中国の介護市場に進出した「日本式介護」の差別化に関する研究、北隆館月刊誌、地域ケアリング、査読なし、20巻5月号、2018、47-49。

郭芳、中国の介護市場に進出した「日本式介護」の特徴を探る 事例調査を通しての分析、同志社大学社会学会誌、評論・社会科学、査読なし、124号、2018、107-124。

<http://doi.org/10.14988/pa.2018.0000000002>

〔学会発表〕(計 3 件)

郭芳、中国に進出した「日本式介護」の経営状況 介護サービスに焦点をあてて、日本介護経営学会第13回学術大会、2017、明治大学

郭芳、中国の介護市場に進出した「日本式介護」の現地化問題 事例調査を通しての分析、日本社会福祉学会第65回秋季大会、2017、首都大学東京

郭芳、中国における「福祉の市場化」への評価を試みる、社会政策学会第134回春大会、2017、明星大学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。